

心聖会 広報誌

発行：社会福祉法人 心聖会
 広報委員会
 発行責任者：吉村 優児
 URL <http://www.e-shinseikai.or.jp/>

(法人事務局)

〒276-0001

千葉県八千代市小池393

TEL 047(488)8222 FAX 047(488)8229



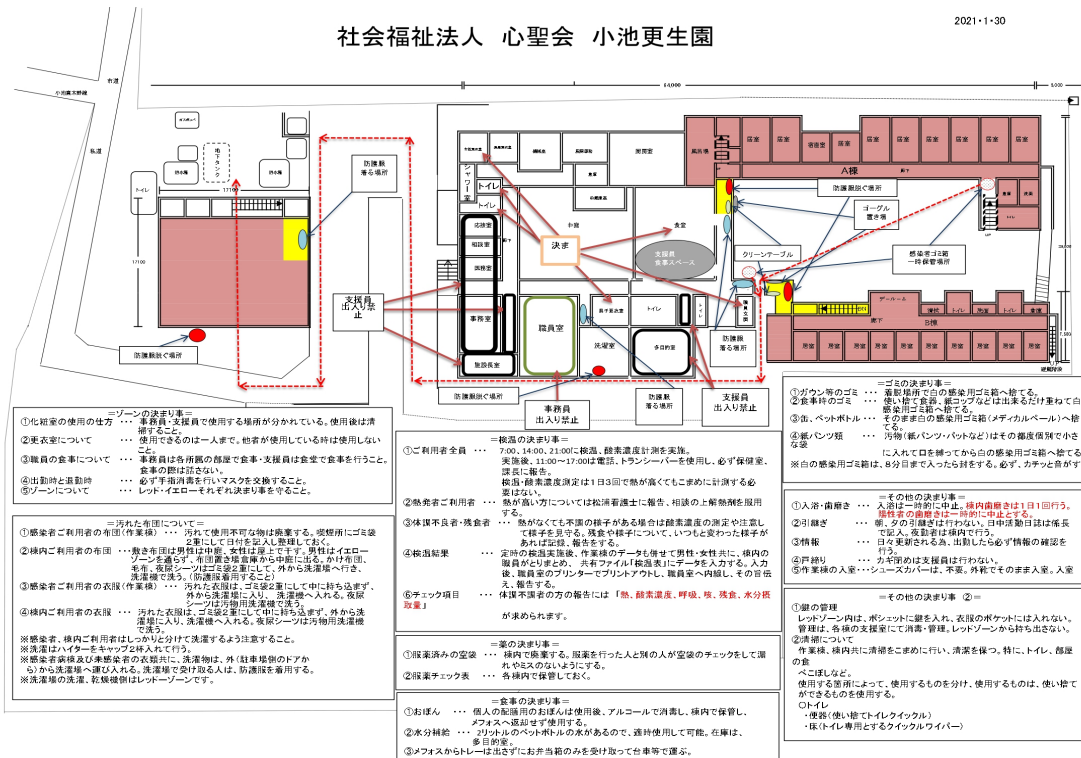
経営理念

わたしたちは、利用者の幸せ、利用者の家族の幸せ、地域住民の幸せ、そして、これらを支えることを職員の幸せとして事業に取り組みます。

- ・障害のある人の人格と個性を尊重します。
- ・障害のある人が安心して豊かな地域生活を営めるよう支援します。
- ・障害のある人の喜びや悲しみを共感できる職員であることに努めます。

社会福祉法人 心聖会 小池更生園

2021・1・30



職員に配布したゾーニング指示書

(それぞれのエリアごとに詳細な“約束事”を記載)

新型コロナウイルス感染症の発生が猛威を振るい、未だ予断を許さない状況の中、新しい年度を迎えることとなりました。日本国内に目を向けても、コロナウイルスの感染防止のため、多くの人が集まるイベントや各種行事は中止や延期を余儀なくされました。小池更生園でもご利用者への面会や、外出等、制限や中止をさせて頂いており、ご利用者様はもう、ご家族等関係者の皆様にも大変ご不便をおかけしているところであります。そのような中、今年1月には新型コロナウイルスによるクラスターが発生し、収束宣言が出るまでの約1か月半の間、その対応にあたることとなりました。収束に至るまでに、感染拡大防止のためで尽力いただいた関係機関の皆様、また、ご家族をはじめ、地域の皆様、福祉施設関係の皆様にも多大なる励ましのメッセージ等頂戴しましたこと、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。まだ全容は不透明ながらも、順次新型コロナウイルスの接種も始まってくると思われませんが、引き続き、手洗い・マスク・手指消毒等、「今できること」をしっかりと行い、感染予防対策を徹底してまいります。

小池更生園

施設長 吉村 優児

新年度のご挨拶

備えこそすべて

～収束までの49日～

小池更生園

課長 冨田 佳奈子

令和3年1月12日より始まった新型コロナウイルス感染症対応は2月末まで続きました。この期間、ご利用者及びご家族、関係機関の皆さまには多大なるご心配、ご不便をおかけしましたことを改めてお詫び申し上げます。また、温かいお言葉や支援品を頂きましたこと、千葉県障害福祉事業課、八千代市障害者支援課、習志野保健所の皆様方には、物心ともにご支援を賜り重ねて御礼申し上げます。

1月12日にこいけ障害者支援センター職員の陽性報告を受け、小池更生園では厳戒体制が敷かれました。14日に3名のご利用者が陽性となり対策本部を立ち上げ、15日に保健所より濃厚接触者と認定されたご利用者66名中15名、職員46名中3名のPCR検査陽性が判明しました。

翌日から連日県の職員、感染管理認定看護師による健康確認、ゾーニング、防護服の着脱方法、清掃、手指消毒、ゴミの処理の

仕方、その他細かい部分についてご指導をいただきました。

入所施設としての最大の使命はご利用者の生命を守ることにありますが、それを支える現場職員が戸惑わず円滑に業務にあたる体制作りが非常に重要です。保健所等からの指導内容を漏れなく現場に伝えられるよう、コロナ専用の掲示板を設置し、情報の共有や伝達ができるよう工夫しました。ゾーニング区域や必要物品が確定し全体的な仕組み作りが確立するまでに若干の混乱がありました。体制が整ってからは、職員はやるべきことを粘り強く、そして、根気強く継続しました。また、必要な物資を途切れることなく準備することにも注力し、事前に相当数



慎重に防護服の着用をします

の物資を準備していたとはいえ、県内でも至るところでクラスターが発生する等、定期的に感染者のピークだったこともあり、特にN95マスクは入手が難しく取扱いのある会社の社長に直談判したこともありました。

2月1日を最後にご利用者の新規陽性者はいませんでした。最終的に27名が感染しました。職員は9名が陽性となり療養せざるを得ませんでした。感染した職員が復帰するまでの間は何か何でも現場を守ろうとそれぞれが一致団結し、最後まで通常の夜勤・日勤の体制を崩すことなく乗り切りました。医療現場とはかけ離れた環境において、職員は手探りの中にご利用者に対応しなければならぬ不安や、自身が感染することへの不安を抱きながらも、果敢に業務にあたった1か月半でした。

事業所で策定したマニュアルでは、感染者が出た場合は即隔離をすることやその場所についても定めており、事前にシミュレーションができていたことが感染者数や対応期間をある程度留め置くことに機能したと思われれます。また、昨年10月には職員1名が陽性となり、2週間の

健康観察期間を経験していたことや、日頃から施設長が口にする「泰然自若」を体現すべく「どんな時でも慌てず騒がず粛々と業務にあたる」ことを職員の心構えとして支援に臨むことであるべきことの実践につながったのではないかと感じました。

「備え」とは物的な面とともに「心構え」という面も重要であり、それが両輪となって「備え」本来の意味が発揮されることとがよくわかる体験でした。日常的な姿勢がいざというときにいつも以上の力となって現れるのだと思います。ここから学んだたくさんの方のことを事業所の糧にし、再来に備え気を引き締めたいと考えています。



感染者が療養した作業棟

(収束後に換気、消毒をしている状況です)

感染症対応の現場から

～非日常の中の日常～

小池更生園

係長 荒井 久美子

1月12日、小池更生園にもとうとうコロナウイルスが入ってきました。 「防護服、フェイスシールド、N95マスク」ニュースで見聞きすることはありましたが、実際に身に着けるのは初めてです。感染管理認定看護師に着用の仕方、消毒の仕方を教わり、更に職員同士でポイントやコツを確認しながら着用しました。物品は全国的にも感染のピークを迎えていたこともあり、安定した確保が難しく、マスク一つとっても同じ種類のものを揃えられず、その都度つけ方のコツをつかむ必要がありました。防護服の着脱に一つのミスでもあればご利用者にウイルスを付けてしまう可能性があります。私たちが感染してしまったり休まざるをえなく、そうしなければご利用者の生活にも支障が出ます。見えないウイルスを除去するためにはどこにでもウイルスがついている、という前提でご利用者支援にあたる必

要がありました。

防護服等の着用はもちろんですが、動線にも細心の注意を払いました。防護服で対応にあたらなければならない場所（レックゾーン）、細心の注意を払って防護服を脱ぐ場所（イエローゾーン）絶対にウイルスを持ち込んでほしくない場所（グリーンゾーン）を明確に区切ることで感染拡大防止を徹底しました。また、トランシーバーや電話を駆使、職員同士が声を掛けあつて連携、常に確認しあうことがとても大切になりました。レックゾーンからは何も持ち出せないため、大事なご利用者の健康状態についてはパソコンで入力グリーンゾーンにあるプリンターで印刷して対策本部に報告をしました。陽性のご利用者が静養をしている作業棟にはパソコンがないため、一人ひとりのバイタルや食事・水分摂取状況、その他の様子については全てトランシーバーや電話で報告し、それをデータにすることが必要でした。

ご利用者の皆さんもいつもとは違う日課での生活になりました。作業活動はお休みになり、毎日生活棟内で過ごすことにな

りました。いつもであればご自身が自動販売機で飲み物を買っていましたが、グリーンゾーンにある自動販売機には行けないため、事前にどの飲み物が良いかを用意した写真カードから選択してもらい、それを職員が購入して提供しました。食事はお弁当箱での提供になりました。食堂は使用できませんでしたが、居室で食えることとなりました。入浴支援ができませんでした。清拭で対応しましたが、1・2月の寒い季節です。清拭用タオルを温めてもすぐに冷えてしまい、寒い思いをさせてしまいました。歯磨きをするときも洗面所の使用は一人ずつ、一人終わるごとに清掃、消毒が必要なため、待っていただくこともありました。何もかも初めて経験するような状況において、しかも職員は皆防護服を着用し、ご利用者から見れば誰が誰であるかわからないような中でもパニックにならずに過ごしていただけたことは私たち職員にとっては救いでした。

ご利用者の体調面では検温、酸素濃度測定、食事・水分摂取量の確認、いつもと変わった様子はなにか、の確認をしますが、

体の中までは見えませんし、不調があってもうまく伝えることが難しい方が多く本当に大丈夫なのか、と不安もありました。熱がなかなか下がらない、食事が摂れない、という状況でも薬があるわけではなく、医療的ケアもできず、私たちができることはバイタルの計測、変わった様子があればすぐに報告することくらいで非常に歯がゆい思いもありました。

今回のクラスター対応では徹底的清掃、消毒をすることで見えないウイルスレベルでの「清潔」を学びました。まだまだ油断のできない生活が続いています。この経験を無駄にせず、引き続き感染症予防に努めていきたいと思えます。



食事はイエローゾーンで準備をして
お部屋へ届けます

作山更生園便り

作業棟見学会

〜いじこ念願の日!〜

昨年10月末から開始した作山更生園敷地内の新作業棟建築が2月に終了し、優しい茶色を基調とした新しい作業棟が無事に完成しました。

コロナ禍のためささやかですがご利用者と職員で作業棟の完成を記念して、記念式典を3月17日(水)に開催致しました。見学を通じてご利用者と支援者とをつなぐ共通のベースとなる作業棟の魅力や可能性を知り、活動のビジョンを考える「きっかけ」を一緒に創出する事ができたと思います。



皆さん初めて行うテープカット☆



とっても美味しいカニでしたね♪

記念式典テープカット♪

ご利用者と一緒に作業棟を見学したあとは、市川施設長、ご利用者によるテープカットを行いました。張り渡した色鮮やかな紅白のテープをハサミでカットし、新しい建物や施設の披露と、新たな出発をお祝いしました。また、昼食には豪華な力二のお弁当を召し上がって頂き、ご利用者の皆様にとっても充実した一日になったのではないのでしょうか。次年度からは日中活動の拠点となる「活動の場」を設けることで、ご利用者の多様な可能性を広げていけるよう活動を行ってまいります。

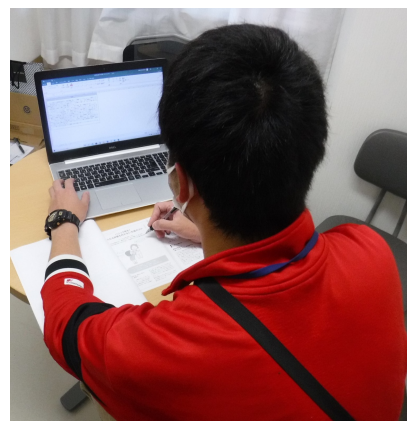
〜いじこ念願の日!〜

職場のコミュニケーション活性化のため、「サンクスカード」という、支援員同士が褒め合ったり感謝を伝え合ったりする制度です。日々の多忙な業務の中でなかなか伝える事を忘れてしまいがちな感謝の気持ちを伝える機会になっています。

感謝は、特別なスキルがなくても誰にでもできることですが、意識しないとなかなか届けられません。普段は関わりが少ない人への感謝を伝えること、今まで見えなかった誰かの行いに気づくことができることが一番の良さなのかもしれません。皆さんも是非、普段では伝えにくい感謝の気持ちをカードに書いてみてはどうでしょうか♪



まずは自分から、感謝を伝えてみよう!



どんな状況でも常に学ぶ姿勢を!

〜リモート研修始めました〜

昨年から、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、本来の研修スタイルではなく、集わないで行う新しい様式でのリモート研修を行っています。

開始当初は画面越しでの講義に、若干の違和感もありましたが、確認したい部分に戻って見ることや出来、自分のペースに合わせて学びを深められて便利です。また、研修後には理解が深まった点・実践に活かせると感じた点についてのレポートを提出することで、自分の行う支援に適した方法は何か、またどのような働きかけが効果的か、についても考えるきっかけになりました。様々な研修や経験から学びを得る事で成長していきたいと思っています。

こいけ障害者
支援センター便り

新年度の取り組み

今年度の作業活動は、昨年度から引き続き感染症対策により、小池更生園から通所されている方と、ご自宅から通われている方に分かれて、別々の作業室で活動しています。コロナ禍により外部での活動に制限がある中、少しでもご利用者の社会参加に繋がる活動ができるように取り組んでいます。新たに編成された「4チーム」の取り組みの一部をご紹介します。



きれいなハートになりました

チームイエローは開所当初から近隣公園の環境美化活動（アダプト制度）を行っており、1年程前に大学町の佐山緑地に花壇を作り、四季折々の花で公園を彩ってきました。昨年11月には八千代市環境緑化公社より配付していたパンジーをハー

ト型に栽植しました。チームグリーンは2年程前から受注している「ちいき新聞の折り込み・配布作業」は、軌道に乗り昨年12月から受注エリアを増やして活動しています。今迄参加できていなかった方も、練習を重ねる事で参加できるようになりました。

チームレッドはこいけベジファームでの農耕作業を継続しており、様々な農作物を栽培し、やちよ農業交流センター等で販売しています。また、ご利用者が描いた絵をベースに、マスコットキャラクターの「ベジちゃん」が誕生しました。

チームフレンダーは感染症対策により室内での活動が増え、心身の機能が低下する生活不活発病や、体重増加に繋がらないように、「ランニング活動」を始めました。神崎川の河川敷を走り、さわやかな汗をかくことにより、心身ともにリフレッシュすることができています。

これからも、その時々状況に合わせて、ご利用者一人ひとりの「ハート（想い）」に寄り添った活動をしていきます。



こいけホーム

こいけホームの豆まき

今年になり早3ヶ月経ちますが、まだ「普段の日常」には戻りませんね。とはいっても、もはやこの生活が「普段」として定着してきた人もいるのではないのでしょうか。

さて、2月には、こんなご時世の中でも良い事があるようにと、豆まきを行いました。支援員がお面をかぶり鬼を演じました。ご利用者の方々は「鬼だ!」「鬼怖いよ!」「あっちいけ!」と楽しそうに豆を撒いていました。鬼に撒いた後には勿論、家（壱番館）に向って福は内。皆さん、「今年もきつと良い事がある!」と思ってもらえたのではないのでしょうか。



みんなで鬼を退治! 福を呼び込みます

変わりゆく世の中、この春からもいろいろな変化があるでしょう。別れと出会いがあるように、良い事もきつと待っています。そんなことをご利用者と話しながら、今年も「こいけホームのお花見」を行いました。感染対策の観点から、佐倉ふるさと公園の桜を、車窓から見学しました。その後はこいけホームにてお食事を。今年も桜見れた「綺麗だねえ」と楽しんでいただけたと、ご利用者の顔を見ると、例年とは違った形ですが、お花見の機会を提供出来て良かったと感じました。来年は満開の桜の木の下でお食事できれば、もっと楽しい思い出になりますね!



車中からのんびりとお花見

法人だより

新任職員紹介

【①名前②出身地③好きな言葉】

〈小池更生園〉



①足立 陽子
(あだち ようこ)
②千葉県千葉市
③雲外蒼天



①小倉 観月
(おくら みづき)
②千葉県富里市
③ボジティブ



①両角 優日子
(もろずみ ゆかこ)
②千葉県印西市
③一期一会



①近藤 希
(こんどう のぞみ)
②千葉県木更津市
③感謝

〈作山更生園〉



①川上 理恵
(かわかみ りえ)
②東京都世田谷区
③初志貫徹



①熊崎 優美
(くまさき ゆみ)
②岐阜県下呂市
③思い立ったら行動



①今野 早織
(こんの さおり)
②宮城県黒川郡
③初心忘れるべからず



①佐伯 亜未
(さいき あみ)
②千葉県千葉市
③失敗は成功のもと



①去渡 沙織
(さわたり さおり)
②千葉県八千代市
③一日一生



①伊藤 大輔
(いとう だいすけ)
②千葉県四街道市
③素直

〈こいけ障害者支援センター〉

異動のお知らせ

〈小池更生園〉

海老原 淳一

(前・こいけホーム)

岡部 洸太

(前・こいけ障害者支援センター)

〈作山更生園〉

瀧井 梓

(前・こいけホーム)

田村 直毅

(前・小池更生園)

寄附のお礼

・柴垣 謙介 様

・株式会社タイヨー 様

・旭建設株式会社 代表取締役

・高橋 昌宏 様

・社会福祉法人翡翠会

・大越 将司 様

・持倉 佳人・貴佳 様

ありがとう
ございました！

小池更生園みそ加工班からの
お知らせ

平素より、小池更生園みそ加工班の味噌をご愛顧いただきありがとうございます。

今年1月に新型コロナウイルスによるクラスターが発生し、味噌の販売を一時中止とさせて頂いておりましたが、2月に終息を迎え、現在は販売を再開しております。ご購入を検討されている方々には、大変長らくお待ちいたしました。何卒よろしくお願い申し上げます。

編集後記

4月となり、新年度がスタートしました。小池更生園の坂(通称「小池坂」)では、桜が満開に咲き誇り、春の息吹を大いに感じている今日この頃です。昨年度は新型コロナウイルスの影響で野球の大会が中止となり、心聖会野球部も活動することが出来ませんでした。今年こそは！と意気込んでいましたが、活動再開にはまだしばらくかかりそうです。まだまだ大変な時期が続きますが、一人ひとりが協力して、この大変な時期を乗り越えていきましょう！